

「観音寺日譜」(5)

(京都府乙訓郡大山崎町観音寺所蔵)

— 宝曆九年日譜② —

石 井 日出男

本稿は、前稿を承け、宝曆九年（一七五九）「観音寺日譜」の後半に当たる七月朔日から十二月末日までを解説して紹介する釈文である。この宝曆九年は、既に紹介済みの宝曆二年から六年を閲するが、この間の「日譜」は現在所在が不明である。

さて、「日譜」から判明するこの年の山内居住者の構成を種別に検討すると、正月現在で、院家（第五世泰空^三）以外の僧侶が七名、随身の俗人が六名、下男が四名であり、七年前とはほぼ同規模であった。

僧侶の内、「役者」を勤めていた①興松寺（養傳房）は四月二十五日に引退願が認められ（養傳房興松寺退休之儀願之通此夜被 仰付、拜領物等委曲記録^三 留有、尤御願之趣以書付被仰上、則納置）、五月九日から鳥飼に所在する末寺の興松寺で隠居生活に入ったことである。なお、観音寺の歴代の「役者」の多くは末寺の興松寺の住持

が勤めており（この場合、通常は観音寺の方に居住して観音寺の寺務を執り、興松寺には留守居を置く）、したがって、興松寺の住持は自ずと観音寺の諸事情・寺務に精通した最長老的立場の僧侶となる。現存する日譜で最も古い延享元年（一七四四）日譜から宝暦二年日譜段階までの在山の僧侶として「養全書房」が存在しており、この宝暦九年日譜の養傳房は養全房と同一人物と考えられる。そうであれば、ここに観音寺の最古参の僧侶が引退したことになる。養全房と共に宝暦二年日譜にみえる②定観房は、養傳房の引退後は最古参となり観音寺の役者を勤めることになると思われる。

観音寺山内の居住僧であるが、従来はみられなかつた性格の僧侶として③圓空房が存在する。彼は客僧的な立場にあり、自身の従者として森善三（善藏）を雇っていた。また、圓空房は独自に信者（帰依者）を有している（例えば正月七日の条に、丹後由良村の新屋万六等の来山があり、「右ハ圓空房帰依之衆中也」とある）。さらに、六月には権律師の官位が勅許され、十二月には御室御所の院号の一つである「勝功德院」の名跡を預り、すなわち、観音寺の住持と同様に御室御所の院家を兼帯する立場となっている（十二月二日、同三日の記事参照）。この時期、観音寺には御室御所の院家が二名存在したことになる。ただし、観音寺の住持（秦空）は、前年（宝暦八年）三月に権僧正に任官しており、両者の官位には相当の開きがある。

以上の三名以外の僧侶は、④観典房、⑤明嚴房、⑥智道房（知道房）、⑦賢隆房（見龍房）の三名で、智道房は三月二十九日の記事から「音潮房」へと改名したことが判明する（昨夜、智道房愛名被仰付）。なお、以下にみる随人の俗人の内、平田桂州が四月に出家し「東岳房慧空」の法名を授与され僧侶として観音寺に勤めること立場を変えている（二月十六日、四月朔日・同日・同十四日の条を参照）。また、九月以降、後に役者を勤めるこ

とになる。与楽院が観音寺の寺務を勤める者として現われるが、関係のある記事が少数のため、山内居住者であるのか、山外からの寺務の助力者であるのかは判然としない。したがって、この時点における与楽院の立場については留保しておく。

寺務に従事する俗人は、①井上主税、②後藤弾治、③平田桂州、④三宅平馬、⑤巽新吾、⑥森善三(善藏)の六名である。以上の内、井上・後藤の両名は宝暦二年日譜にみえ、宝暦二年ないしそれ以前からの在行者となる。なお、宝暦二年日譜段階まで長く「役人」を勤めた人物に三宅平兵衛が存在するので、三宅平馬はその平兵衛の関係者(おそらく子息)であろう。また、井上主税はこの時期の「役人」を勤める立場(俗人勤務者の筆頭)にあったが、二月下旬、御室御所の寺侍へ転職、杉本内匠と改名している(二月十九日、同二十一日の条等を参照)。観音寺の住持は御室御所の院家を兼ねる(法浄院と称す)ことから、以後、杉本内匠は観音寺にとつて御室御所関係における有力な情報源・協力者となる。平田桂州と森善三については前述の通りであるが、森は六月二十六日に退山している(「圓空師々暇長申請退山」)。以上六名の他に、三月下旬から、観音寺に勤務経験があり現在は京町奉行所に勤める松田新八郎の舎兄・庄藏(将曹)が、新八郎の仲介で観音寺の禄を食むことになった(三月二十六日の条を参照)。ともあれ、観音寺の寺務従事者(寺侍)は、養子等の機会があればさらにキャリア・アップが可能であったことが判明する。

下男は、①貞助(貞介、定助、定介)、②清助(清介)、③七助(七介)、④善七が当初のメンバーで、善七は二月二十一日に「御暇頂戴」して在所へ帰っている。なお、三月から忠助(忠介)、八月から関助(関介、石介)が山内居住の下男として加わったものと思われる。以上の常雇の下男の内、「関助」のみが宝暦二年日譜にみえる。

ただし、関助の名が年度途中から現われること、また宝暦二年からの経過年数を考慮すると同名異人の可能性がある。

本稿は、神奈川大学日本常民文化研究所の共同研究及び二〇〇三年度日本私立学校振興・共済事業団学術研究振興資金による研究（研究代表者 中島三千男）の成果の一部である。

なお、神奈川大学日本常民文化研究所の調査を快諾され、伝世の貴重な所蔵文書の公開を決断されて提供して下さるとともに種々のご教示に与った観音寺住持の井上亮淳氏（元種智院大学教授）に厚く御礼申し上げます。

註

- (1) 江戸時代に名跡がある仁和寺の院室は「仁和寺諸院家記」（『群書類従』巻第五九 補任部十六、第四輯）によると七八院、「諸門跡譜」（『群書類従』巻第六一 系譜部二、第五輯）によると六六院であるが、「勝功德院」の院名は、前者の四六番目、後者の三二番目にみえる。ちなみに、観音寺の歴代の住持が永兼帯する院号の「法淨院」は、前者の六四番目、後者の五六番目に登載されている。

〔宝曆九年日譜〕②

七月朔日晴天

一御室 正親町 仙臺屋敷暑中見舞御使

御留守居服部兵太郎殿へ素麴三十把年始御挨拶兼之

素麴一箱暑中献上

明 巖房
供一人

金百匹圓空師任官御礼ニ

御前々献上 真乘院様へ素麴一文匣

土橋太輔殿へ素麴三十把

是ハ圓空師の御礼なり

一參詣

伏見京橋 左兵衛

温飩之粉一袋指上候(袋)

一就所勞、八幡中村采女方へ參ル

定 観房

二日晴天

一帰山

明 巖房

一 登山

神照院

一 七ツ時々大雨大雷、八幡町之内雷火

三日 晴

一 八幡へ参詣

観典
見龍

四日 晴

一 上京

明
巖忠介

智積院寛海法印此度圓福寺へ入院ニ付、東行為御送別、中啓打掛卷本卷紙三百枚被進候御使同人
相勤 純庭へ 銀式両被下之

一 登山

西田源藏

大峰高野等御札等色々献上

一 御用ニ付、伏見へ参(校註：人名記入なし)

五日 晴

一 禁裏献上

東京明巖

素麴一函 長橋殿同断

相勤 ④

右京大夫へ、多葉粉入

七介差登

六日 晴

一 登山

安満村与八郎

暑中為御見舞、真瓜二十献上

一 津嶋屋越後へ暑中為御覧、水玉二筒献上

一 正田大學へ暑中為御挨拶、水玉被遣之候事

七日 晴

一 御礼登山

豊後殿

一 明巖房所旁へ付登山

間法 ④

八日 晴

一 葛葉久修園院へ、如例御布施銀壹両齋米三升菜料三匁被遣之候事

一 聞法寺へ、藥礼銀五両、八幡町中村采女へ、三匁五下、大喜多道仙へ、銀一両各被遣候事

一 中西豊後殿へ、素麴二十把被遣也

一京使

清助

仙臺屋敷七夕之御祝書被指出候

右掃便^ニ 昏屋庄左衛門方^ノ真瓜一籠指上候、丸屋喜入^ノさ、^(取)き十把指上候

一真上村光徳寺^ノ使来、定觀彈治方^江内用書到来

一神照院法相義講談結席

九日 晴

一鳥養西之村新吾母^ノ使来

暑中為御鏡、真瓜十献^正□

一伏見茨木屋清兵衛方^ノ御影堂唐戸鉄金^物□相揃手代持来

十日半晴

一^明京盆前御拂^二付上京

定觀房

彈治^ハ伏見^江御拂寄候

彈治^{下男一人}

一為御鏡登山

鳥養村
遍照院

西瓜^{大ニ} 淺瓜^{大五} 献上

右便^ニ 庄屋源右衛門^ノ西瓜^二献上

一御影堂唐戸皆成就、細工人大工 平治
一參詣

ふしし 津国屋左兵衛

十一日晴

一暑中為御尋、安養院和尚の御使僧、弟〔兄〕學英房登山 御前御對面御直答

十二日半晴

一伏見丸や五兵衛方の暑中為御伺使差越

西瓜 一裹

小芋 獻呈

一神照院律師へ明日 開山已齋被進べく旨御使僧

一帰山

明 敵
定 觀 房

一登山

古市 徳 王 寺

十三日晴

一等引金剛御法事如例

後藤 彈 治

一 神照院御登山、御着座

即知房 侍從

一 退山

古市邨徳王寺

鳥飼遍照院

一 西田源藏方ら暑中御伺ため

真瓜一頭献呈、任序丸や五兵衛方へ

破札 暑中御見廻書状頼遣ス

十四日晴

一 即日帰山 京都四條へ御使

貞介

一 神照院へ中元之御祝儀被仰入

金二百匹 （菓二番一函御贈進

定観房

十五日晴

一 當日御祝詞のため登山

中西豊後殿

一 御祝儀参上

大工平治

十六日晴

一 鎮守参詣

金百匹中元為御祝儀相収
榮井や利右衛門

此日 鎮守講再興

冠村
小兵庫

山主初、寺内僧俗下部迄奉納、其外參詣衆中相勤者也

十七日晴

一神照院即知房登山、中元御祝儀被仰入候御挨拶也

十八日晴 無事

十九日晴

一神照院へ御使僧、明巖房

一登山

森善三

廿日晴

一就出事、京都桜井怨軒老方へ參

善三候二付即夜登山
一登山

音潮房

桜井怨軒老

善三弟新三□

桜井園八

一 神照律師御登山、即知師侍從

廿一日晴

一 登山

疋田大学殿

一 神照院律師即知師登山、寶庫虫拂手傳之ため也

一 仙家閏七月分御祈祷御守札出使

元介

桜井恕野老方へ、圓空師就用事相寄ル

廿二日晴

一 京都矢倉六藏殿母御機嫌伺登山

僕一人

そうめん一箱 茶二袋 袋
海そうめん 呈上

一 御機嫌伺 即日退山

松田新八郎殿

一 神照院様御登山

廿三日晴

一 御室佐和山将曹殿方へ、内室安産之護符符被差贈

忠介

一高濱妙法寺之儀^二付、同邨弥右衛門方へ參

明 敬 房

一神照院御登山

一松井中性院[△]暑中御伺使被差上、西瓜^二裏呈上

廿四日晴

一神照院御登山

廿五日晴

一暑中御伺登山

草花数莖獻呈

松田新藏
僕一人

廿六日晴

一神照院就虫拂、御侍從中三兩輩、為手傳被遣

御前、神照院へ御出

廿七日晴

一神照院へ就虫拂 御前御出

御侍弟中西三輩被遣

廿八日晴

一參詣

一大坂榮井屋利右衛門方より知音之由二而參詣三人、其内婦人一人

大坂
連森元長左衛門
一一人

一京都油小路錦上ル 処伊勢ヤ市右衛門鎮守へ參詣 琥珀糖二棹一 献呈

一御室杉本内匠殿伊丹金剛院御改除檢使相濟掃掛登山

保命酒二賀上一

侍一人
僕一人

一參詣 伏見京橋左兵衛

干温餛飩呈

廿九日晴

一鳥飼中小路善兵衛方より暑中御伺のため使差越 西瓜 二裏差上候

一佐々木六右衛門より 麦粉一袋二献呈一

善兵衛江 保田葛一箱被下置 六右衛門へ砂糖一口二被遣一

晦日晴

一 御前御室へ、御參、夫々京都へ御出駕、早旦御挾箱一荷音潮房付添京都御旅館へ差出

御供 東岳房 清介

一 高月守寓居膳所之牢人宇都宮圖書殿、カムリ村小兵衛同伴登山、先回小兵衛内願申置候

再勤候様ニ御祈念被成下候様被相願、御留守之趣申聞置退山 多葉粉 十五把呈進

一 御機嫌伺登山

伏見京橋五兵衛

栗栖野新田反畝帳面持參

一 大坂栄井ヤ利右衛門方々使差越、圓空師方へ也、止宿、翌日退山

閏七月朔晴(口)

一 京師天御駕之者帰山 天供之醒井餅持帰(巻)

二日晴

一 京木ヤ町圓空師へ人參、帰掛任幸便、御旅館へ白雪扇頼遣ス

三日晴

一 神照院即知師登山 ラカン画開口新語□□□□

一 浪華小西左兵衛、圓空師へ參詣

四日晴 無事

五日晴

一浪華天満内田藤藏殿△圓空師△使差越ル

六日晴

一神足油や弥兵衛、自身甥當山△奉公△差上たき由願△參上

七日晴

一京華△七助帰山、明日御帰山△付御迎之者三人差登被下候様申来

八日晴

一京師△御迎之者三人貞介差登候所、正親町様御用出来△付御帰山御延引、依而御小乗物
挟箱持帰
四人

九日晴

一大坂森元長左衛門方々内山藤三殿親屬之由^ニ而播^{播の}人圓空師へ尋来
京都大佛金物や善兵衛参詣

十日晴

一備中持寶院登臨^早

僕一人

羊羹 三棹進呈也

一御帰山

御供音潮房

京都御駕の者^ニ而二人

東岳房
清介

十一日半晴

一登山

冠村小兵衛

高月宇都宮圖書殿内願之儀^ニ付登山

一退山 出京

持寶院

一神照院様御貴臨、即知師侍従

候一人

十二日半晴

一仙臺御屋敷々以平井大八郎を

屋形様々御參府御祝被仰上候、御直答、御書持參 御前御對面、奈良嶋一反被下置

一 御前、神照院へ御出

東岳房
新吾

白布一反御贈進也

十三日晴

一 無事

十四日降雨

一 仙臺御屋敷へ御使

忠介

延姫様御逝去御悔被仰上候 御直答の御請、御使僧人魂申遣 御直書三通之御請書

三通被遣

十五日雨

一 登山

伏見
西田源藏

十六日雨

一 參詣 白寶一封ツ、兩人差上

宇都宮図書

十七日晴

一 京都へ帰山

一 登山

冠村
小兵衛

持寶院
鳥養供一人遍照院

十八日晴

一 参詣

榮井や
利右衛門
とも一人

十九日晴

一 清酒取とん田

仁兵衛

光徳寺へ御多葉粉申遣ス

一 遍照院京へ被参

廿日晴

一 登山 大坂新製まんぢう献呈

一 神照院へ御出

鴻池屋
長左衛門

東岳
新吾

一 帰山

三宅平馬

廿一日晴

一 仙臺御屋敷へ 八月分御祈禱御守札差出使、其外用事相兼

貞介

一 登山

大坂
大和ヤ
善兵衛

一 神照院へ 御出

東岳
新吾

廿二日半晴

一 仙臺家江戸御留守居飯淵三郎大夫七月中就御用上京、此節滞留^三而 八幡山當山參詣

同伴京御屋敷役人吾妻次左衛門兩人登山、中飯酒差出、寶寺妙喜菴一見、七時退山、

明巖案内

一 大門寺へ 先回為御挨拶、定観房罷越

小半紙五束 御贈進

仁兵衛

廿三日雨

一 登山

右八等巖房出訴之義^二 付内願之義有之參上、羊羹^{三五}棹獻呈

大津サへ
おさゑ
との

御前御對面、山下ニ一宿

□退山

鳥飼
遍照院

廿四日雨

一登山

中西豊後殿

一神照院へ御使僧、觀典房

一帰山

定觀房

廿五日半晴

一御前神照茶會^(カ)へ御出

東岳
新吾

一伏見尼崎や吉次郎先回奉納之綿結^(カ)拜受之ため登山

廿六日雨

一(無記入)

廿七日晴

一上京私用

定觀房

一大津おさへとのゝ先日之御礼として使被差上

一登山

古市郷 又兵衛
徳王寺

廿八日半晴

一京都へ御使

清介

一神照院御登山、即知師侍徒

松井郷

一時節御伺登山

中性院

廿九日晴

一上京

明巖房

一帰山

定観房

一西田源藏使来、牧田惣兵衛借金筋要用也

一京使

貞助

一暇頂郷里へ下ル

平馬

一退山

徳王院
中性院

八月朔日

一二條御礼、就御所勞、役者を以被仰入候

使僧明藏

一為御賀登山

栗栖野百性

一同

中西外衛

一為御見舞登山

京都 矢倉六藏殿

一參詣

宇都宮圖書

一方内觸書来ル 別記ニ有り

一登山

養傳房

二日晴

一退山

矢倉六藏

一登山

中性院

一帰山

明巖房

完介

三日晴

一新吾母のお常當^{トコ}地へ帰^ニ付、乍序御機嫌伺使差上 強飯一重^{ツツ}呈^マ献

一登山

西田源藏

一退山

鳥飼遍照院

一登山 菓子二函獻呈

仙臺長条房

六兵衛

四日晴 灌頂受者衆中へ御傳受初

一京都御屋敷へ御使

忠助

御室へ廻又

一御團拵

五日晴

一出京私用

後藤彈治

六日雨

一退山

長条房

一帰山

後藤彈治

一京都松田新八郎へ使差越、庄藏荷物取寄候也

七日晴

一 神照院の御使僧、即知房

一 御前、神照院へ御出

一 丸や喜十郎、大坂へ帰掛寄山御伺 やうかん献上

八日晴

一 京都所へ御使

石碯介

中將様八幡御参向ニ付、正親町様へ御借用物之儀被申越、即夜丁子村百性共へ領掌之趣返書差遣ス

一 退山

丸や喜十郎

一 於神照院、地藏院流御傳受、此日へ御初、毎日午後へ御出、持寶院圓空師同断

九日晴

一 漣頂御前行、此日初夜へ御開白、護摩御執行

十日晴

一 仙家御留守居服部兵太郎交代、多田勇助八月十五日上京ニ付、今日服部氏へ毎之通御餞別御使僧被遣、風呂敷一御贈進

明 巖 房

丸ヤへ直ニ參支度
申候也

忠 

十一日晴

一 (無記入)

十二日晴

一 (無記入)

十三日晴

一 正親町中将様八幡へ御參向ニ付、御借用物取寄御使三人相渡遣ス

一 登山

徳王寺

十四日晴

一 退山

徳王寺

一 登山

鴻池ヤ
長左衛門
連ノ人



九ヤ
喜十郎
連二人

翌日未明△
同 退山

十五日雨

八幡放生川北△取付石橋東詰全官昌寺△御宿
一未明△八幡△而正親町中将様御旅館△御伺、

御使僧 明蔵房 僕一人

御酒一樽△外 御贈進

一登山 利右衛門△慈鳳房次第官頼下△

榮井ヤ
利右衛門

一出坂利右衛門同道

観典房

天満鍋嶋御屋敷留守居
鶴弥右衛門△書状到来、仍而下向

一大坂嶋之内淡路ヤ五郎兵衛御祈念願、宿運増輝之旨趣也 白銀一枚献上

八月十六日△同廿二日迄御開壇也

一中西豊後殿△絳飯一重呈上

十六日晴

一 神照律師御登臨

一 御觸書到来 井上河内守様 御制札可相渡旨觸来

尤足輕様の老當山へ別觸^二而參、答書遣久、行事留^二有

十七日晴

一 下坂 鍋嶋屋敷へ御内用^二付

一出京

明巖明日 御制札領受之ため 紙ヤ一宿

私用、

觀典房
持^九寶院
明巖房

十八日晴

一 未明[△]下男二人京都紙ヤへ差出、京都へ明六過着、五前西御役所へ罷出、御制札請取相濟

即日帰山、明巖僕二人

一 登山

松井
中性院

十九日晴

一 帰山

觀典房

一 神照院様御登臨

一 帰山

持寶院

一 明日御諸司へ制札御領受之為御札御出仕^三付、伏見西田源藏方へ御供御頼使

一 登山

西田源藏

廿日晴

一 ^{制札ノ御札御出仕}未明[△]二条西御奉行、諸司代、東奉行へ

御出札 御小乗物三人

音潮房 源藏

清介 僕^三□人

一 淀勝寿院へ使僧、趣へ先達^而等^而殿房出入首尾能相濟候旨申来、等殿房へ興松寺へ手紙

一 登山

祝園神 官寺

一 參上

中西豊後殿

一 登山

義慈 天雲 房

廿一日雨 五つ過へ晴

一 仙家九月分御守札出御使、□山同断

貞介

一登山

智山見龍房

此便ニ付市居大式、法幢院、御借物返上、為御礼温飴呈上

廿二日晴

一神照院御登山、御印可御修行

一登山

塔之坊

徳王寺

八百ヤ庄兵衛

一御前中法灌頂之御印可御修行

廿三日晴

一義天師知已津輕密元法印師弟大法為拝見登山、一宿、翌日退山

一初夜、普賢延命中法御開壇

廿四日晴

一神照院様大法為拝見御登山、一宿、翌日御齋差出御退山

一大坂淡嶋ヤ五郎兵衛、御守札頂戴使

廿五日晴 朝雨天

一 普賢延命中法御結願

一 退山

慈雲法印

義天師

徳王寺

神宮寺

塔之房

八百ヤ庄兵衛

廿六日晴

一 退山

一 登山、一宿、翌日退山

徳王寺

桜井恕斬老

大次郎

覚房房

廿七日晴

一 漕頂道場支度、神照院御登山

一登山

瑞山房

一登山 持寶院へ内用ニ付

備中南泉坊

廿八日晴

一神照院様御登山、御止宿

枕灌頂

一灌頂御糸繰、於御客殿、神照院御登山、御一宿

一退山

瑞山房

備中南泉房

一登山

茶一帊（茶）献上

伊藤左兵衛
連者三人

一登山

一四日帰京之由

泰雄房
大雲房

廿九日晴 午後△雨

一灌頂 香葉合等首尾能相濟

一登山 大仏餅呈上 光

茶一帊（茶） 超観師

智山 光照院

超観房
僕一人

晦日晴

一 京都御使

七介

一 退山

光
超 観照院房

一 四条紙やゝ使到来、時計為持越え

九月朔日晴

一 登山 則日退山

西田源藏

一同 御酒式神 献之
御酒老樽

松田庄藏

右者 松田新八郎ゝ献之

二日晴

一 灌頂御開壇

一 仙臺御屋敷へ御使僧

尤御入料請取

養 傳房
供 関助

一 登山

智山見龍房弟子

真龍房

一同 小芋 牛房老把 菜老拵

中西外衛

一同 松茸巻臺

九屋喜十郎

一同

智山 瑞山房

一登山 頭芋三把

京都 吉兵衛

三日晴

一登山 時節御機嫌相伺

淀等 殿房

乍序、勝寿院の 御伺被申之也

一淀木下小兵衛方の使来ル

右者去ル丑ノ年九月流水ノ節（通）、當山出生竹巻駄可被遣旨被仰遣、依之来春居宅普請仕候之旨
為知来也 返答ニ十日迄之内ニ 相切可遣之由役者の申入候也

一登山

吉田祐藏

四日雨天

一御灌頂御開壇之御祝義として使来

長芋式括

祝園 神宮寺

松井村 中性院

一とん田使

山下 元助

一 登山 御砂糖 巻箱

尊天江 御酒料銀巻兩被備之

一 登山

五日晴天

一 結縁灌頂

一 登山 則日退山

一 參詣 則日退山

一同 割こんふ巻袋 則日退

一同 牛房式把 則日退山

一 御灌頂御開檀檀之御祝賀として八幡豊藏坊々

使僧 こん布五拾本 三本入巻箱自分 御賀被申上之

杉本内匠殿

国領帯刀殿々

大坂榮井屋利右衛門

鴻池屋

長左衛門

紙屋榮性尼

外二 同道女中式人下

下部 巻人

薄屋甚右衛門

丸屋おげん

おゆそ

衣棚おひさ

おちく

下部巻人

義雲房

一 參詣 せん香壺把

香料 壺封

一同 (白麴糖壺把)

一同 則日退山

一同 羊羹壺棹

一 京都へ御使

一 さん詣

多用ニ付差留メ宿也

六日晴

一 昼飯、於客殿、各相伴

一 退山

豊藏坊内鳳 瑞房

同 山本喜内

紙屋新 助

桜井恕軒老

下男ノ致人 式人

舛屋五郎兵衛内

供老人

下部七助

安満村 藤介

泰雄房

中性院

瑞山房

長栄房

八百屋
庄兵衛

杉本内匠殿

丸屋喜十郎

七日晴

一出京

持宝院

一退山

見龍房

真龍房

丸屋勇藏

松田庄藏

一神照院へ御出

為御礼金五百疋美濃紙拾帖 即知房へ木綿沓疋

奉供 東岳
新吾

一出京

明厳房

宗門帳相納、且菱屋茂兵衛拜借金之儀相訴置候事

定介

八日晴

一自分用事ニ付祝園へ參ル

音潮房

一 豐藏坊へ御使僧

同人

灌頂御祝義之御返札、奉書平切三百枚

一 塔坊へ同断

同人

金貳百疋同断

一 安満村庄屋与八郎登山、拝借銀之儀来月十五日迄日延相願候、付、右之趣御免被下候事

一 京都御使

清介

一 帰山

定助

九日晴

一 御礼登山

中西豊後殿

一 京都へ御使

関助

一 八幡へ参向

大雲房

十日晴

一 登山

紙屋庄左衛門

十一日

一 帰山

一同

一同

一 退山

一 登山

音潮房

持宝院

明厳房

庄左衛門

杉本内匠殿

十二日晴

一 淮頂入檀通為御礼登山

保命酒壹德利献上、即日退山

長栄房

十三日晴

十四日晴

一 伏見へ下向

一 登山

持宝院

西田源藏妻

仁兵衛
お沢

十五日晴

一 御室御所へ御參

供奉

松田庄曹

御駕三人
清介

一出京

後藤彈治

一 御團拵

一 參詣

西田源藏

十六日晴

十七日晴

一 上京

遍照院

一 登山

饅頭三十進献

伏見

朝日奈又助

同伴

齊藤沢右衛門

十八日晴

一如例 禁庭献上

使

遍照院

御宝札

長八

枋一籠

長橋殿へ

御札

杖一籠

右京大夫とのへ

国分たはこ一斤餘

御翠簾拝領之儀願出候事

一 帰山

持宝院

十九日晴

一 帰山

遍照院

一 京都へ御使

後藤彈治

一 登山

仁兵衛

一 登山

徳王寺

時節為御尋、紅柿一籠献上

安養院弟子

覚栄房

廿日晴

一 御帰山二付 御迎兩人差登ス

廿一日晴

一 御帰山

奉供

松田勝藏

廿二日晴

一 山主 横山神照院へ御出

奉供 東岳

一 參詣

文蜂子之郷兵衛

御宮江 胡桃一袋献供

一 南都藤村佐渡之使来、例年墨製伺候、饅頭三十指上候、近年墨製殊外悪敷候条、先年者御傳有之候

製法書吟味之上可申付旨、遍照院之返答

(校註：日付「廿三日」記入落ちか)

一 昏屋庄左衛門方之飛脚来

右者 西御役所公事方真野八郎兵衛殿之書状来、兩三日中 御奉行所へ役者可參旨申達

一 淀 宇治 伏見江 當月分御札使

下人 仙助

一村上勘兵衛方ハ手代来 宛書傳百部摺願也
御免之上即日ハ摺初

廿四日曇

一西御役所へ參上

遍昭院 供一人

即日帰山、一条上田沢田女川端武兵衛出入之義ニ付當山江沢田女ハ相願候ニ付、本山
ハも先日右願速ニ御裁許可成下旨望願致被遣候處、書付止メ置、今日内ニ而被相戻
候、委細行夏留ニ在リ

一登山

中西外衛

廿五日晴

一仙臺御家来 古山主水上京ニ付、為御見舞使僧

与樂院下人 清助

廿六日、斉藤六郎大夫京着

一丸屋半兵衛ハ使来、右著 御室杉本内匠殿ハ要書到来、上田沢田一件也
一右沢田女用ニ付、御室江廻リ上京

遍昭院下人一人

廿六日晴

一上京

持寶院

一村上勘兵衛手代 寤誓傳摺り終り退山

一仙臺古山主水、就京着、為御見舞使者

帟布ニ反進上

佐藤伴大夫

一帰山

与楽院

一山主 横山神照院へ御出供 東岳

遍照院

廿七日快晴

一御室江 長持挾箱塩味噌等為持下人四人指出

右著 来世日々山主真乘院ニおゐて

西院御傳授、暫住山被食候ニ付、右(二付カ)自性院殿御旅亭ニ御借用有之候也

廿八日晴

一御前 仁和寺へ御出

御供音通 朝房

此日古山主水齊藤六郎太夫等在京ニ付
為御尋問京都へ御回り御應對有之

松田正曹

晦日ニ 御至へ御引移

御挾箱一荷

清介

仙介

一 退山

徳王寺

廿九日晴

一 登山即退山

松井中性院

灌頂ノ御礼

一 登山

肥前大雲房

一 栗栖野へ参

後藤弾治

晦日晴

一 登山 拝借金願のため参上

西田源藏

一 帰山

後藤弾治

一 帰山

音朝房

一 三宅平馬義多田へ入湯仕度由伊兵衛殿へ願来ニ付相談之上即遣ス

仙介

十月朔日晴

一 帰山御客へ

七介

一 退山

西田源藏

二日晴

一御室へ御無人ニ付見龍房參上

石介

即日歸山、東岳房參 七介

一退山 八幡山參、近日高野山へ入衆之積也

大雲房

三日晴

一御室へ歸山

七介

四日晴

一御機嫌伺登山

開田
三宅伊兵衛

五日雨

一登山

中西豊後殿

六日午へ晴天

一參詣

中飯酒差出

七日晴

一御室御借院へ御機嫌伺參上
捨重物持參

八日晴

一帰山

定観房

九日雨

十日晴

一登山

中西豊後殿

十一日晴

大坂

奈良ヤ
平兵衛

油ヤ

清右衛門

河内ヤ

仁三郎
ともし一人

定観房

七介

一 奥院へ参ル

高取助内

十二日晴

一 登山

鴻池屋

長左衛門
文七

十三日晴

一 登山

中西外衛殿

一 拝借銀日延為御願登山

安満村年寄
兩人

十四日晴

一 登山

泰雄房

一 御室へ御使

関助

一 楠葉村五兵衛方へ竹之為御礼菓子二袋、神照院へ到来

十五日晴

一 御帰山

御供
東岳房

松田将曹

十六日晴

一京都へ御使

清介

七助

十七日晴

一登山

神照院

興松寺

大和屋
善兵衛

一同

安満村年寄共
兩人

右八拜借銀四貫四百目之内式貫目持參返上、残銀著日延願帰

十八日雨

一登山

神照院

即知房

十九日晴

一上京

後藤弾治

廿日晴

一 御室御里坊へ御使

七介

廿一日晴

一 御室へ御出勤

御供 東岳房

松田将曹

清介

一 東岳札拝行結願

一 御屋敷へ御札使

関助

一 帰山

後藤弾治

廿二日晴

一 登山

中西豊後殿

廿三日晴

一同

同 外衛殿

廿四日晴

一 御屋敷へ御使

七介

廿五日晴

一 登山

紙屋新助

一 伏見西田源藏へ使来

廿六日晴

一 登山

中西豊後殿

廿七日晴

一 登山

興松寺

紙屋新助

一 渡辺繁右衛門方へ使来、忠政三回忌三付、饅頭三十、① ゐんちん三把被相備候事

廿八日晴

一 登山

神宮寺

廿九日晴

一 神宮寺、御室へ參上

霜月朔日晴

一 中西豊後殿へ使來、蕎麥粉三升進呈之也

二日 晴

一 御入料為請取上京

明 嚴房
關介

一 登山

神宮寺

三日晴

一 帰山

三宅平馬

四日晴

一 御室へ御使

吉兵衛

五日晴

一 智山へ後身之義ニ付參ル

観典房

六日晴

一 帰山

観典房

七日晴

□_三 出京

定観房

一 西田源藏へ使さん上、大根ニわ献供

八日雨

一 僕一人京へ差出ス

石介
宮田七郎兵衛
とも一人

□_三 登山

小豆三升 多葉粉九把
献呈

一 伊勢十文字大夫へ御祓并青海苔新曆いつもの通為持越、御初穂銀毫両返書遣ス

智山紀加堂
等空房

一 登山

一 帰山

定観房
石介

九日晴

一御帰山為御知ノため帰山

松田将曹

十日晴

一御室御旅宿へ使遣

越前 七介

一登山

覚城房

一御團拵

一浴油開白

十二月分御祈禱、定観代修、承仕見龍相勤

一退山

紀州 等空房

十一日晴

一京都へ御使

吉介

一登山

鹿嶋 卓隆房

十二日晴

一登山

中西豊後殿

一 退山

覚城房

水室へ □^宛

一 安満村御借付銀返上之分未納仕候^二付、當日[△]廿石上納

一 登山

中田式部殿

来客^二付座敷拜見被相願候、則明殿案内拜見 □

十三日晴

一 御帰山

御供東 岳

一 登山

将 曹
丸屋 五兵衛 清介

一 勸修寺宮様[△]時節為御見舞御使、湯波志箱御到来

十四日晴

一 上京

養傳房

一 登山

覚城房

一 上京

圓空師

一 登山

伊師
中倉七郎大夫
使

例年之通御被曆等御到來
御初穗銀子壺而被遣之候也

十五日晴

一自分用上京

後藤彈治

十六日晴

一參詣

鴻池屋
長左衛門

一登山

神照院

一同

中西豊後殿

一同

八幡山
鳳瑞房

泰雄房

右兩人花水供秘次第御^座□授之儀兼而被相願置候^二付、此日登山、則於客殿御傳授有之也
鳳瑞事良巖下改名也、煎茶一袋進獻之也

一退山

覚城房

十七日晴

一 帰山

養 房

後藤丹治

一 栗栖野百性共御藏附ニ付兩人登山

一 神照院へ御出

伊弉 (兵衛)
御供(岳房)
東

十八日晴

一 御守札出使

吉平

一 登山

尊圓寺村
池之坊

十九日晴

一 退山

養傳房

廿日晴

一 登山

安瀨村
与八郎

御拝借銀皆納仕候ニ付證文等

吉兵衛

返遣ス也

一 八幡豊藏坊へ使、先達而良巖房登山之砌銀子拝借之儀被願帰候ニ付、為右断 書状遣ス

一登山

養傳 □^②

廿一日 朝雨天

一仙臺家寒中御見舞之御状差出ニ付、京都御屋敷へ參ル

興松寺
關介

一斎藤へも寒氣御見舞御口上有之也

砂糖漬一曲有合被遣之也

一正親町様へも御使僧

以上

一登山

中西外衛殿

一退山

養傳房

廿二日晴

一正親町様斎藤六郎太夫へ御使僧

興松寺
關介

廿三日晴

一帰山

興松寺

廿四日晴

一登山

安養院

弟子

御對顔後中飯出之

一登山

伏見

津国屋佐兵衛

水菜二把献上、金子式兩拜借罷帰ル

廿五日晴

正親町様へ御講断状遣ス 鍋嶋御屋敷へ寒中御伺状差出ス

一三輪市十郎殿へ御使

吉平

先達而 花生竹所望之書状到来ニ付、右花生竹巻本為持遣ス

一安養院へ使僧、昨日之御礼并来ル 廿八日御召請之趣、猶又神照院御同伴被^座候様被申入候事

一九ツ半時地振ス

一暮六過キ 降雨雷鳴ス

廿六日晴

廿七日晴

一出京仙臺御婚禮日取相定候目為知來

与樂院別ニ御用有之

未明[△]上京、即日召進返入

一御登山

智山御印可ニ付三人共上京

與樂院

興松寺

觀典房

神照院

即知房

廿八日晴

一御前、神照院御同伴^ニ而安養院へ御出

御供見龍房

東岳房

松田庄藏

三宅平馬

清助

一津嶋屋越後[△]寒中伺使差越^ス、蒸菓子一重獻呈

一歸山^{京都}

興松寺

一音潮房大坂へ相下^ス、圓空師内用也

廿九日晴

一昨日御出之御礼ニ登山、安養院和尚

密柑一籠呈進^密

一 京都丸ヤム 御室内匠殿の状為持越ス

一 帰山

與樂院
観典房

晦日晴、八ツ過る雨

一 御前 御室へ御出、夫へ御出京

御供
松田庄藏

京都へ石介一人御荷物為持差出ス

元介
石介

一 登山

忠介
御駕者二人
養傳房

薩摩屋敷利銀受取持参

十二月朔日半晴

一 出火見廻被申入候挨拶、寒中尋旁登山

鳥養
お道との
正田大學殿

一 京都へ御駕者二人帰山

一 登山

胡蘿富 天王寺カフラ

伏見
左兵衛

献呈

二日晴

一仙臺御屋敷御入料請取使

一大門寺の使僧

時節為御窺、蕎麥粉二倍献上之

一八幡塔坊の使

寒中御窺、且歳末為御祝義牛蒡一把進献之

一圓空房、此度御室御所御院家兼帯被相願候ニ付出勤

一帰山

興松寺
惠海房

駕者兩人
下部卷人

音潮房

三日雪

一退山

一同

一帰山御室の

御院室廢、興首尾能相濟、勝功德院卜云院室号御預り被申候也

一富田へ醬油取使

一明年御礼當ニ付、為御暇乞登山

鳥かい村
お道

惠海房

圓空房

興松寺

善介

過書殿年寄
齊藤小八郎

四日晴

一 御帰山

一 登山 一宿

御供

松田勝藏
御駕兩人

中性院

五日晴

一 淀過書座下役人谷村茂左衛門登山

来正月分御初穂銀壹枚年寄中利銀三百廿四匁持參、且又去年九月分御初穂延引之銀壹枚

相納、仍而先達而參有之候下役人△書状差返シ遣入畢

一 登山

山下山田七左衛門

右八去月晦日夜、七左衛門宅出火ニ付、見廻申入候挨拶也

一 登山

神照院
即知房

一 登山

覚城房

六日晴

一 栗栖野村伊兵衛百性一人參上、右八年真願ニ付

丸ヤ五兵衛△手紙相添遣入、五兵衛方ニ而申付候様彈治△返事遣

一富田清酒取使

關介

光徳寺へ寄ス

一紙ヤ新介登山、高槻行也、翌日立寄一宿、八日朝退山

一橋本太左衛門登山 天尊供物拝受願来ル

一八幡山松本坊へ參

觀典房

七日半晴

一神照院榎尾山御登山ニ付、見龍房御雇ニ付早且ク參ル

一淀年寄齊藤小八郎へ御餞別被遣使

吉兵衛

道中守護 国分多葉粉一斤半被遣

一退山

覚城房

下り金拂底ニ付被相願、金子一両拝借被申候也

一智山以恩法印ノ使僧到来、出流密門房就病氣 天尊護付頂戴願也

使僧純淨房

八日晴

一大坂住友 鮎ヤ 薩盈屋敷 吹田ヤ 天満屋敷等へ寒中見廻ヲ午房御贈進使差下ス

山下元介

一中西豊後殿へ借進有之候銀子二ノ五百目、山下大夫山田弥三右衛門持參返納、證文三枚差返入

一登山 やうかん二棹献呈

仙臺
長長
榮榮
扇扇

九日晴

一退山

長
榮
扇
扇

一京都紙ヤム飛脚到来、大坂吹田ヤム薩嘉屋敷銀子之儀被申越候書状相届来

十日晴

一參詣

鴻池ヤ
長左衛門

一帰山

元介

一 天満△胡羅富被差上

一 智山へ陀ラニ出仕

定 観房

観 典房

明 厳房

一 勸問主へ寒中御伺使僧、観典房被相勤

牛房一籠 御書

十一日晴

一京都へ使、御内佛殿机二脚差登由也

十二日晴

一退山

養傳房

十三日晴

一御室△御使到来、薩^{智山△}一乘院任官^三付、借用物頼来

一帰山

定観房
観典房
明徹房

一伏見松田新藏△寒中伺使被差上、寒天一折献呈

十四日晴

一帰山^{棋尾△}

見龍房

十五日晴

一神照院御登山、即知房侍従

十六日晴

一安養院へ御使僧

音潮房

仁保鳴海苔

席屋饅頭十五

十七日晴

一登山 如例芋一臺献上

池坊

一同

光観房
塔之坊

右八瀧本坊中ノ坊々金子拝借之儀被相頼候ニ付、内々相尋被来候也

一富田使

治兵衛

十八日晴

一御札出、明巖登京

年晩諸方牛蒡御贈進之御使相勤ル

仁兵衛
長三郎
元助

一三宅伊兵衛ノ使来、為歲晩御（兼）か不、牛蒡大根芋進献之也

一 登山 寒中御鏡

一 八幡塔坊へ使

昨日内々相頼被来断申遣又

木鹿下太郎右衛門

十九日晴

一 退山

池坊

一 神照院へ御出、為歳末御祝義、小奉書二帖被遣之候事

一 登山

中西豊後殿

廿日小雨

一 登山

安養院

一同 金子百疋
齋麦粉二俵

朝日奈又助

廿一日晴

一 京使

吉兵衛

仙家来辰年御祈祷被仰付候御請、歳暮御祝義状差出

廿二日晴

一御室へ、歳晚牛蒡之御使

一登山

一豊後殿へ、炭壹俵、内室へ、銀子貳両、お常へ、延紙二束被遣之候事

一山寺大喜多道仙へ、銀四両被遣候事

一三宅伊兵衛へ、半紙三束被遣候事

一豊後殿へ、牛蒡二把進献之也

一目薬屋弥兵衛へ、半紙二束被下之也

廿三日晴

一登山

密柑蜜一籠、椿花御呈進

廿四日雨

一明日京都出入方拂ニ付出京

彈治義ハ伏見へ、相廻り拂仕舞京都へ、罷出

一智山以恩法印へ先回護符頂戴之御礼として使差被越金百匁一函呈進

音潮關介

養傳房

真

光徳寺

與樂院

後藤彈治

- 一 神足油ヤ弥兵衛（少）ノ牛房一 把歳暮御祝儀ニ 献上
- 一 六条善五郎歳暮御祝儀ニ 参上、（位）ふ一つと献上
- 一 山下目薬ヤ弥兵衛ノ粟五舛献上

廿五日晴

一 御登山

一 歳晚御祝儀ニ 登山

神照院

即知房

中西豊後殿

廿六日晴

一 八幡山豊藏坊ノ歳晚御使僧到来

牛房一折御増進

松本坊泰雄房ノ牛房カふ茸被差上

義畔房
とも一人

一 栗栖野百性とも二人歳暮御祝儀ニ 参上

一 山下富田ヤ藤兵衛ノ歳晚御祝詞ニ 豆腐十丁献上

一 此日未明ノ山下元介京都へ 差出ス

禁裏歳暮献上也

牛房一箱 御春度（カ） 御撫物取社へ

御簾拜領年限故、先達^而相願候処、今日不被相渡、廿八日拜領使僧差出ル

長橋へ、牛房一籠、右京大夫へ、延紙二束

一帰山

与楽院

弾治

紙ヤ庄左衛門△例年之通歳暮御祝儀、金百匹、御鏡餅、御酒一樽三舛、御足帋二疋、栄性尼△

丸や△、御手拭二献上

香具ヤ九郎兵衛△、酒札三舛、屠蘇二帋

夷ヤ善兵衛△、三方一膳

近江ヤ善兵衛△、菓子一帋

春日ヤ△、砂糖一曲

津嶋ヤ△(名酒清氷一壺)

紙庄へ、御祝儀被下物、銀沓枚、金百疋、飯料、栄性尼へ、銀二両

宗伯へ、銀沓両、外ニ謝礼壹両

武州幸順へ、銀二両、丸ヤへ、飯料銀二両

桜井永藏へ、金三百匹^{御室御住山の節御見廻物の御挨拶、葉礼とも}

井上縫殿へ、金三百匹

廿七日晴

一 御餅搗 前日中西氏父子御招被遊候ニ付
役人中ノ手紙ニ而申遣候事

真上
光徳寺

一 退山

一 松田新八郎ノ薯蕷一籠御酒一樽差上、使札參ル

一 神照院へ御出、御供 東岳

一 上京 明日御所御慶拜受御使僧、萱場衛守殿へ
御見廻使義而也、今日ハ私用

観典房

廿八日晴

一 神照院へ先回地藏院流御傳受の御礼使

明巖房

仙臺紙布一端 金百匹

御弟子中ノ銀二両、歳末之御祝儀ニ被遣候事

一 今日 禁裏御簾拜受、萱場衛守殿へ在京御見廻御使僧観典房被勤候ニ付、供のため

今日清介差出ス 衛守殿へ一森二斤一箱、密柑一籠被遣候事 衛守殿十二月九日着也

一大工平治ノ歳暮御祝儀ニ牛房献上 八百ヤ嘉兵衛ノ密柑一籠献上候事

一 登山

松田新八郎

昨日參上可被致候所、御用急ニ出来、仍今日登山也、拜借銀返上之心ニ而銀百目早上

廿九日晴

一富田へ御酒取使

門前仁兵衛

一豊藏坊へ御使僧

見 龍 七介

歳晚御挨拶、且江府參勤之御餞別ツケトテ、国分烟草一斤餘、仁保嶋海苔五十枚被御進之候

一聞法寺へ、薬礼銀壹枚被遣之也、百六拾帖代

一伏見丸屋五兵衛方々使来、歳暮為御祝儀小いも五舛献上之、例年ハ餅一重致献上候得共、

當年ハ故障之儀有之、仍而断申越

一帰山

観典房

此日又々御簾之儀ニ付長橋殿御玄關へ被參候處、御簾御餘慶無御座由ニ而来春申出シ候様

差図有之也

晦日晴

(無記入)

(宝曆九年日譜終)